



Factors Affecting the Risk of Diabetes Development among Brazilian Residents in Japan

溝畑, 智子

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2022-09-25

(Date of Publication)

2023-09-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第8453号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100477879>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(様式 3)

論文内容の要旨

専攻領域 国際保健学領域

専攻分野 国際保健協力活動分野

氏 名 溝畑 智子

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を()を付して併記すること。)

Factors Affecting the Risk of Diabetes Development
among Brazilian Residents in Japan

(在留ブラジル人の糖尿病発症リスクに影響を及ぼす要因)

論文内容の要旨 (1,000字~2,000字でまとめること。)

背景：糖尿病の有病率は、生活習慣と人口の高齢化に伴って世界中で増加している。近年、ブラジル人の糖尿病発症率は高く、そのリスク要因として肥満、運動不足が報告されている(WHO - Diabetes country profiles, 2016)。また高齢化は糖尿病のリスク要因の一つでもある。日本には多くのブラジル人が来日しているが、在留ブラジル人も長期滞在に伴い高齢化しつつあり、今後慢性疾患や糖尿病の発症が問題になってくると予測される。本研究では、在留ブラジル人の糖尿病の発症リスクを評価し、その要因を明らかにすることとした。

方法：日本に住む40歳以上のブラジル人を対象に、無記名の質問紙調査を行った。調査票は、2型糖尿病の発症リスクが測定できるFinnish Diabetes Risk Score (以下 FINDRISC とする) (0-26点で評価され12点以上が高リスクとされている)、基本属性、健康状態、ライフスタイル、身長、体重、腹囲の値等により構成した。分析は、FINDRISC 点数が12以上を高リスク群、11以下を低リスク群として、リスクが高い影響要因を検討した。

結果：対象は男性77名、女性104名(平均年齢52.9歳)の181名であった。このうち糖尿病と診断された人が26名(14.3%)いた。糖尿病と既に診断された26名を除いて、高リスク群は32名(17.7%)であり、「最終学歴が小学校卒業」、「日本語が全く話せない」、「豆料

理であるフェイジョンをほとんど食べない食習慣の人」が有意に多かった。

考察：低学歴による教育の不十分さは、疾患やその予防の理解が困難となり、糖尿病のリスクを高めやすく、健康行動が悪化する可能性がある。日本語が全く話せない人は、文字よりも会話で情報を得ることが多い日系ブラジル人にとって、糖尿病に関しての情報を得る機会が少なくなり、糖尿病の予防行動につながっていない可能性がある。フェイジョンは豆料理であるが、豆類は低脂肪、低カロリーかつタンパク質が豊富なので、糖尿病のリスク低減に有用である。そのため、ほとんど摂取しない人はリスクが高かったと考えられる。基礎教育と健康教育は非常に重要であり、ヘルスリテラシーは糖尿病やその他の健康問題に関する知識や理解を向上させるため極めて重要である。

結語：本研究は、在留ブラジル人の糖尿病発症リスクの要因を調査した。日本に住む在留ブラジル人の糖尿病リスクが高い要因は、学歴が小学校卒業、日本語が全く話せない、フェイジョンをほとんど摂取しないことであった。

指導教員氏名：中澤港

(別紙1)

論文審査の結果の要旨

氏名	溝畑智子		
論文題目	Factors Affecting the Risk of Diabetes Development among Brazilian Residents in Japan (在留ブラジル人の糖尿病発症リスクに影響を及ぼす要因) (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	中澤 港
	副査	教授	松井 三明
	副査	客員教授	上杉 裕子
	副査		
要 旨			
<p>本研究は、日本に住む40歳以上のブラジル国籍をもつ人を対象に、自ら開発した質問紙を使って、糖尿病発症リスクの指標となるFINDRISCスコアと、基本属性、健康状態、ライフスタイル、生体計測値との関連を調べたものである。COVID-19が流行している状況下であったため、ブラジル人支援NPOを通じて配布した自記式質問紙を郵送で回収という形ではあるが、男性77名女性104名から回答を得て、統計解析の結果から、FINDRISCスコアが高い「糖尿病ハイリスク」に、「最終学歴が小学校卒業」「日本語がまったく話せない」「フェイジョンをほとんど食べない」が有意に関連していることを見だし、そのメカニズムとして健康知識や情報アクセス能力の不足、不健康な食習慣の可能性を議論している。</p> <p>断面研究であるため、既に糖尿病を発症し治療を開始している人は食事や運動などの生活習慣が発症前とは変わっている可能性があり分析に含めることができず、アウトカムを糖尿病そのものではなく発症リスクが高いことを示す指標に過ぎないFINDRISCスコアにせざるを得なかったという最大の限界に加え、半数が日系2世だが約1割は非日系も対象に含むという遺伝的背景を分析していないこと、生体計測値が実測でなく自己申告であること、多変量解析をしていないことなど限界はあるが、上記の発見と議論は国際保健上重要な貢献といえる。</p> <p>よって、学位申請者の溝畑智子は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。</p>			
掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。 Mizohata S, Uesugi Y, Matsuo H. Factors Affecting the Risk of Diabetes Development among Brazilian Residents in Japan. Int J Environ Res Public Health. 2022 Jun 23;19(13):7698. doi: 10.3390/ijerph19137698. PMID: 35805352; PMCID: PMC9266133.			